

## ● 出題の基本方針・ねらい

人間の知覚経験や行為における主観性・客観性の問題を軸として、哲学・認知科学・生物学など多角的な視点から論じた文章を出題した。受験生には、科学的データに基づく客観的事実と、個人の主観的体験の関係性について深く考察し、論理的に理解することを求めた。現代社会における AI 技術の発展や情報処理の課題とも関連する、時代性のある重要なテーマを扱った問題構成となっている。

## ● 出題の構成

学校推薦型選抜と一般選抜で出題範囲が異なる。

- ・学校推薦型選抜 問題 1（現代文）・問題 2（現代文）
- ・一般選抜 問題 1（現代文）・問題 2（古文）

現代文では論理的な文章から語彙力・読解力を問う出題となっており、漢字の書き、慣用句・接続語などの空欄補充、内容合致問題などさまざまな形式で問う。

古文では古語の意味、古典文法、内容合致問題に加え、文学史としての知識を問う出題もされている。

## ● 学習上のアドバイス（参考）

国語の読解力向上のためには、まず語彙力の拡充が不可欠である。単語の意味を暗記するだけでなく、文脈の中での使われ方や、類似語との使い分けを意識して学習することが重要である。論説文読解においては、筆者の論理展開を段落ごとに整理し、具体例と抽象的概念の対応関係を明確に把握する訓練を積むべきである。小説読解では、登場人物の心情変化を時系列で追うとともに、表現技法が与える効果について考察を深めてほしい。古典については、基礎的な文法事項の定着を前提として、作品の歴史的背景や文学史上の位置づけについても幅広く学習することを推奨する。日頃から多様なジャンルの文章に触れ、批判的思考力と豊かな想像力を養うことが、総合的な国語力の向上につながるであろう。